

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立啓成中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上：学校全体が学力向上についての気運が高まっているので、次年度も今年度の取り組みを継続していきたい。また、家庭との連携を図り、家庭での学習時間1時間未満を20%以下にすることと、0時間をなくし、更なる学力向上を目指したい。</li> <li>業務改善・働き方改革の推進：データの共有や業務内容の改善を行うとともに、職員のタイムマネジメント力の向上が課題である。また、超勤時間の縮減のために、定時退勤日の設定と実行をめざしたい。</li> <li>開かれた学校づくり：コミュニティ・スクールをとおして、地域・保護者・学校が連携を図り、教育環境を充実させることで、生徒指導面と学習指導面をさらに向上させていきたい。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	『互いの心を響き合わせ、みんなで成長する～響成の啓成Creation～』
----------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導面：「みんなの学校・みんなで活動づくり」を通して、生徒同士が共に助け合い、響き合う仲間であることの意識を高め、互いの成長を喜ぶ心を育てる。また、お互いが支え合い、認め合い、高め合えるような活動を重視し、生徒の持てる能力を最大限に発揮させる。</li> <li>学習指導面：「みんなの授業づくり」を通して、基礎学力の定着を図り、共に学ぶ意識を向上させ、互いに認め高め合う学習集団をつくる。また、学力を高めるとともに、自尊感情や自己有用感を高めることで、進路保障につなげる。</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 ○生徒会との連動	○生徒アンケートにおいて、思いやりの項目「人の気持ちがわかる」80%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止のための取組、いじめ事案対処等)について組織的な対応ができていると回答した職員80%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒(中学3年生)70%以上 ○生徒アンケートにおいて「学校生活は充実している」生徒70%以上	・「特別な教科 道徳」の授業や人権・同和教育を充実させる。 ・生徒との積極的な関わりやいじめアンケート、定期教育相談等を通して、共通理解・情報共有を行い、組織的な対応を充実させる。 ・キャリアパスポートを活用し、これまでの学びを振り返るとともに、高校調べや職場体験学習を通してのキャリア教育の充実を図る。 ・常時活動の主体的な計画・実践を促し、儀式を含めた学校行事の機会を捉え、生徒の活躍の場を仕組むことで、健全な自尊心(自己尊重感・自己有用感)を高めさせる。							◎道徳教育推進教員(辻) ○人・同教育(辻) ○各学年主任 ◎生徒指導主事(田雑) ○各学年主任 ◎特活主任(打越)・3年主任(古籠) ○各学年主任 ◎生徒会担当(田雑・嶋)
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 ○感染症等の予防	○欠席者・遅刻者の理由を把握し、新たな不登校生徒の発生0人を目指す。 ●児童生徒の交通事故を0件を目指す。 ○感染症、熱中症等の発生0件を目指す。	・毎日の健康観察で、欠席者・遅刻者の把握と理由の確認を行うとともに、職員間で情報共有することで不登校生徒の早期発見・予防に努める。 ・防災・安全指導を充実させ、日常生活における生徒の危機予測能力を育む。							◎教育相談担当 ○養護教諭 ◎安全教育(徳永) ◎養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○多忙感の解消	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○職員との協働意識と同僚性を高め、業務の効率化と役割分担を行い、多忙感解消と感ずる職員70%を目指す。	・定時退勤日を設定(毎週水曜日)しと実行する。 ・部活動休養日(第3日曜日・毎週水曜日)を実行する。 ・職員のタイムマネジメント力を高めさせるとともに、定時退勤日の確実な実施を行う。 ・事務職員、市雇用職員、非常勤講師等							◎管理職 ◎管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○信頼される教職員としての意識の向上	○教職員としての高い倫理観と規範意識の向上	○組織の一員であることの自覚と日常におけるコンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律堅持100%を目指す。	・職員会議、服務指導0(ゼロ)の日で指導するだけでなく、外部人材による服務研修を実施する。							◎管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------